

法人名	社会福祉法人白百合会
施設名	西川島保育園

発表者名 (職名)	末石 大輔 (保育士)	住所	横浜市旭区西川島町134-11		
発表者名 (職名)		TEL	045-373-0257	FAX	045-373-0272
発表者名 (職名)		メールアドレス	nishi-kawashima@minos.ocn.ne.jp		
		URL	https://shirayuri-nishikawashima.com/		
		定員	90名	職員数	43名

発表の概要・内容

4歳児クラス20名 それぞれの個性が輝く、大好きなものに一直線の子どもたち。エネルギーにあふれる子が多く、取っ組み合いの喧嘩も日常。遊びたい力は強いけれどフルーツバスケット、ごろドッチ、鬼ごっこなど集団遊びになると「面白くない」「やりたくない」「負けるからヤダ」「見てる」と抜けてしまったり、やらなかったりする子も多かった。
ルールも集団も気にする前に思いっきり遊ぶことを大切に、夏にかけて、水遊び、泥んこ、プール等みんなが心を開放し、笑顔で遊ぶ活動をしていった。すると“自分”が強かった子が“みんな”を感じるようになり、雰囲気が変わってきた。とはいえルールのある遊びや勝敗のある遊びでは入ってこない子もまだまだ多かった。

【忍者になってみたい？】

猛暑の夏、晴れているのに外に出られず気持ちがモヤモヤ…。ある子が布を口に結んで「忍者参上」とポーズ。目が輝いて何人かの子が忍者になって戦いごっこが始まった。夢中で目が輝いて。有り余るエネルギーを抑えるよりも思いっきり出せる遊びをしよう。そして私は「侍」になった。

【日々の忍者との闘い】

担任は悪侍になり、100均ショップに売っているプールのスティックを刀にし、侍のカツラをかぶり忍者たちと戦い始めた。真っ赤な侍の刀をぎりぎり避ける。「すごいでしょ?」「わたしもやる!」あっという間にみんなが集まりひらりとかわす。「〇〇君かっこいいね」と友だちを認める場面も増えていった。「忍者って隠れるのうまいんだよ」朝の会で一人の子が隠れ蓑の術を披露すると「みんなでやろうよ、先生侍になって!」部屋の中でかくれんぼ、見つかったら刀で…ドキドキワクワク。鉄棒や登り棒も忍者の修行、部屋の中でも忍者たちは力をつけていった。運動会、みんなは忍者になりきって、悪侍との対決。お父さんとお母さんと忍者ダンス。鉄棒や登り棒だって真剣披露。たくさんの笑顔と拍手の中で自信がついていった。

【忍者から来た手紙】

秋、忍者から手紙が「焼き芋食べたい。」と。クラスは大騒ぎ、みんな目を見合わせドキドキ。そこでみんなで買い物に行って焼き芋を作った。甘くおいしい焼き芋は忍者がいつの間にか持っていた。手紙がまたきた「焼き芋ありがとう、お楽しみ会、見に行くでござる。」

【みんなで作った忍者の劇】

大好きな忍者の絵本、ちょっと真似してやってみたら楽しかったようで、劇ごっこをやる気満々。絵本の忍者になり切って、「こうしたら分身の術みたいじゃない?」「みんなでおならプーってしようよ」場面ごとに見せ合って、恥ずかしさもたくさん感じておふざけにもなりながらそれでも楽しく迎えたお楽しみ会。一人一人が今の自分を十分に発揮した会になり、成長を保護者の方に見てもらえ、心が一回り大きくなったように感じる行事となった。

【やりたいがみんなとつながる原動力】

今では、みんなで何かをしようという時にはどの子もやってみようという姿になってきた。子どもがみんなと一緒に何かをする力は“させる”ことではなく、子どもの“楽しい、やりたい”と一緒につくっていくことが大事だと実感した活動だった。